

平成29年度学校目標

全日制

4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
		具体的な方策	評価の観点
<p>1. 教育課程・学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲を高め、進路選択に結び付く教育課程の改善に取り組む。 ボランティア活動を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様な進路希望に対し、生徒にわかりやすい総合学科としてのカリキュラムの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの自己実現・進路実現に向け各種ガイダンスを実施し、生徒が獲得した各自の進路希望に対応し、自主的積極的に課題に取り組めるよう、グループ学習や発表型授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で発表型授業・グループ学習を授業に取り入れることにより、生徒の授業参加がより主体的になったか。
<p>2. 生徒指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を図る。 教育相談コーディネーターを活用した生徒一人ひとりへの支援体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の規範意識の確立を図り、豊かな心の育成に向けた取組みを充実させるため、ケース会議を開催し、外部機関や専門機関との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から生徒一人ひとりの変化に気づき、生徒の情報交換や支援体制を充実させるために、教科担当者会議および年次会を定期的に開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担当者会議を年1回、年次会を月1回定期的に開催できたか。
<p>3. 進路指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」を基盤とした、生徒一人ひとりの進路実現に結び付く進路指導・支援体制の充実を図る。 	<p>(1)進路実現を図るため、進路情報を積極的に発信する。</p> <p>(2)授業や部活動、学校行事の運営を通じてリーダーの育成と社会性の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 適切な進路選択、進路実現に向けた指導が行えるよう、「秦総ライブラリー」をさらに充実させ、情報の共有化をさらに推進させる。また、進路分野別に情報紙などの発行や説明会を行いタイムリーで有効な情報を発信する。 授業での積極的な発言、発表や各種行事への参加を促進させる。また、部活動や校外学習など体験的活動への参加を促進させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「秦総ライブラリー」が活用され、進路分野別に適切な情報を発信できたか。また、アンケートの結果、生徒が満足できる情報であったか。 生徒による授業評価や授業担当者による評果点が向上し、また校外学習など体験活動の参加者が昨年より増加したか。
<p>4. 地域等との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動を核とした地域貢献を図る。 地域・社会との相互交流による教育の推進として、「南が丘地区豊かな心を育む協議会」との幅広い連携と協働を図る。 	<p>(1)ボランティア活動、あいさつ運動を核とした地域との連携を深める。</p> <p>(2)地域の小・中学校や自治会と連携を深め、教育活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアバンクを活用して積極的にボランティアへの参加を図るとともに、地域のあいさつ運動においても、地域の方々とのあいさつを通して、生徒一人ひとりのコミュニケーション能力の育成を推進する。 南が丘地区にある幼稚園・小・中学校との連携をさらに推進し、地域の自治会等の行事に積極的に参加するなど、教育活動の充実に向けて連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアに参加する生徒の延べ人数が昨年度より増加し、かつ参加する生徒の意識の向上が図れたか。 生徒の教育活動に対して、地域の方々からの感謝の言葉や、自治会等の協力的な支援が得られたか。
<p>5. 学校管理・学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。 コミュニティ・スクールを中心とした学校運営への変換を図る。 	<p>(1)安全管理・危機管理等を踏まえた連携体制を整備する。</p> <p>(2)学校と保護者や地域の方々力が合わせて取り組むコミュニティ・スクールのシステムを構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理支援システムを用いた成績処理・帳票管理において、手順・点検を確認し、必要に応じて再整備を図る。 地域ボランティア部会とキャリア・連携部会の2つの部会を設置し、地域・保護者と協力して、教育活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理支援システムの運用において、手順・点検体制を整備できたか。 2つの部会を設置し、年3回以上運営できたか。

平成29年度学校目標 定時制

4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
		具体的な方策	評価の観点
1. 教育課程・学習指導 ①生徒が主体的に学習に取り組み、分かることが実感できるような、組織的な授業改善を推進する。 ②外部の教育資源を活用した幅広い教育課程を編成する。	①組織的な授業改善の目標を「生徒主体の授業展開」と定め、生徒が主体的に参加でき、チームティーチング方式を生かす展開方法を追及する。	①総合学科の特性を活かし、チームティーチングによる授業展開など、生徒が主体的に参加できる環境を整備し、生徒それぞれの理解力やペースに合わせた課題設定や指導を行う。	①生徒による授業評価の項目6「生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている」の評価が、3.6以上（4点満点）になったか。
2. 生徒指導・支援 ①個々の生徒の状況掌握と情報共有によるきめ細かな指導体制を推進する。 ②自己肯定感の醸成による問題行動の未然防止に努める。	①支援のあり方について理解を深め、生徒一人ひとりの情報を的確に把握して課題解決にあたり、ケース会議での情報や支援の手法が職員間で共有する。	①個々の生徒の状況等を把握し、教職員間の情報共有と共通理解を図る。また、頻度の高いケース会議等の開催により、スクールカウンセラー等の専門家や外部関係機関、専門機関との連携を図る。	①ケース会議を8回以上（昨年度6回）開催し、支援方針を全職員に周知し共通理解することができたか。
3. 進路指導・支援 ①基本的な学力を充実・向上させ、進路希望を達成させる。 ②社会人としての自覚と勤労意欲を育成する。	①社会人として必要な要素を理解し、自覚を持って社会へと出られるよう支援する。	①外部講師による「産業社会と人間」の授業等の回数を昨年度よりも増加させ、職種による必要な知識の違いを理解させる。	①外部講師による授業展開の回数や内容が昨年度より多く充実したものであったか。
4. 地域等との協働 ①保護者や近隣地域との協力体制を推進し、教育活動を積極的に外部に発信する。	①地域清掃等の地域貢献活動によって、近隣地域に信頼される取組を進める。 ②コミュニティ・スクールのシステム構築を図る。	①地域貢献活動等の機会に、全生徒を積極的に参加させ、事後アンケートにより、生徒の自己肯定感について調べる。 ②学校運営と密接に連携できる形態、地域の人材の有効活用の方策を確立する。	①8割以上の生徒が地域清掃に参加し、自己肯定感を高めることができたか。 ②学校運営協議会を年3回以上開催し、意見を集約することのできる機会を設けたか。
5. 学校管理・学校運営 ①職員の学びあいによる人材育成を推進する。 ②外部連携による総合学科高校としての充実を図る。	①総合学科の充実を図るために、職員構成に応じた業務分担を行うとともに、継続的に業務運営できるように引継ぎを工夫する。	①職員構成に応じた業務分担を行い、効果的な業務引継シートを作成し、事故不祥事を防止する。	①全職員が業務引継シートを作成し活用することにより、事故不祥事の件数がゼロであったか。